

デジタル田園都市国家構想交付金等 (2023年度実施事業)

2023年度 デジタル田園都市国家構想交付金等の活用実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
国の総合戦略	まち・ひと・しごと創生総合戦略		デジタル田園都市国家構想総合戦略				
地方版総合戦略	福山みらい創造ビジョン					次期総合戦略	
デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ) ※2022年度まで地方創生推進交付金	①	稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース					
		②	福山市地域戦略～多様な主体と共に創る地域づくりの推進～				
		③	外国人が暮らしやすく活躍できるまちづくり				
			④	世界バラ会議福山大会を契機としたばらのまちづくりプロジェクト			
			⑤	若者・女性から選ばれる都市づくり			
			⑥	ふくやまSDGs推進プロジェクト			
				⑦	歴史・文化資源を活用した経済活性化プロジェクト		
				⑧	備後圏域中小企業DX好循環創生プロジェクト		
デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ) ※2022年度までデジタル田園都市国家構想推進交付金 (デジタル実装タイプ)			⑨	スマート保育推進事業			
				⑩	介護認定調査業務のデジタル化事業		
				⑪	地理空間情報のオープンデータ化事業		
				⑫	福山市公園施設デジタル化事業		
				⑬	個別最適な学びの実現と保護者へのきめ細かな対応を実現するデジタル化推進事業		
まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 (企業版ふるさと納税)		⑭	福山市まち・ひと・しごと創生推進計画				

※計画期間が2023年度以降の事業について掲載

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用した事業の状況（2023年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース	計画期間	2021年度～2023年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2021年度 実績額 12百万円 (6百万円)	2022年度 実績額 16百万円 (8百万円)	2023年度 実績額 14百万円 (7百万円)	合計	42百万円 (21百万円)
概要	備後圏域全体で経済を支える基盤を構築し、広域連携の強みである多様な人材・産業を生かした持続可能な地域経済を確立する。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2021年度)	実績値(2022年度)	実績値(2023年度)	目標値(2023年度)
域内総生産（備後圏域市町）	32,425億円 (2016年)	31,071億円	— (※1)	— (※2)	34,299億円
従業員1人当たり粗付加価値額	1,079万円 (2019年)	1,129万円	1,071万円	826万円	1,159万円
本計画のインターンシップ事業における 福山市への転職者数	10件 (2019年度)	1件	4件	1件	16件

2 主な事業内容

※1…2024年度末公表予定 ※2…2025年度末公表予定

(1) 新事業の創出、販路開拓支援（実績額：7百万円）

企業の海外向けの販路拡大や持続可能な企業経営を支援する。

2023年度の主な取組

- 企業の稼ぐ力の底上げ



【海外バイヤー向けデニム商談会】

実績・成果

- 海外バイヤー向けデニム商談会の開催
(参加バイヤー:6社、参加事業者数:11社)
- デニム産地の認知度調査の実施
(回答者数:249人)
- デニム市場に関する事業者ヒアリングの実施
(事業者数:10社)
- 中小企業者が実施する新規事業開拓等への助言や相談(支援事業者数:114社)

課題

- デニム事業の更なる成長のためには一般消費者に向けた製品の開発やブランドを立ち上げて、アピールする取組が必要。

今後の取組

- デニム商品の開発セミナーや販路拡大に向けたマッチング支援を通して、商品開発を支援する。また、SNSを活用した情報発信やPRイベントを実施し、デニム産地の認知度向上に取り組む。

(2) 人材の確保・育成に向けた支援（実績額：7百万円）

企業・大学等と連携した備後圏域の経済発展を支える人材の確保・育成を進める。

2023年度の主な取組

- 地域経済を支える人材の確保・育成



【ものづくり大学 びんごA I講座】

実績・成果

- 都市圏の転職希望者を対象に、市内企業における実地又はWEBを通じたインターンシップのマッチングの実施
(市内企業への就職成立者数:1人)
- 「ものづくり大学」の実施
(参加者数(デジタル関係):194人)

課題

- より多くの企業にDXやAI等のデジタル技術に関心を持ってもらうことが必要。

今後の取組

- DX・AIに特化した技術の学び直しやスキルアップに関する講座・セミナーを各産業支援機関と連携して実施する。

委員による評価

事業効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

○「ものづくり大学」においてデジタル技術だけでなく、地域の企業・産業に必要な共通する技能・技術の人材育成も充実させ、備後圏域全体での働く人へのリスキリング体制の構築が必要ではないかと考える。

○人材確保は大半の企業で課題となっているため、周辺地域(中四国)の大学と企業を結び付ける仕組みを構築するなど、市が率先して各大学への働きかけを行う必要がある。

○企業の稼ぐ力の底上げについては、首都圏企画だけでなく、地域でのブランド創造により、首都圏に流れるバリュー(収益)を地域に取り込むことが必要ではないかと考える。

○新事業の創出や販路開拓支援について、目標値に対し実績は未達ではあるものの取組の実績・成果はあり、販路開拓をスタートするに当たった支援策としては中・長期の視点も必要と考える。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用した事業の状況（2023年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山市地域戦略～多様な主体と共に創る地域づくりの推進～	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2022年度 実績額 49百万円 (24百万円)	2023年度 実績額 39百万円 (20百万円)	2024年度 計画額 41百万円 (20百万円)	合計	129百万円 (64百万円)
概要	市内外の多様な主体が地域に関わることで、新たな人の流れを創出するとともに、地域の魅力向上につなげる。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2022年度)	実績値(2023年度)	目標値(2023年度)	目標値(2024年度)
ワーケーション事業を通じて立ち上がったプロジェクトへの参加者	—	67人	47人	35人	60人
まちづくりサポートセンター登録団体(社)数	208団体・社 (2021年度)	223団体・社	234団体・社	226団体・社	237団体・社
「地域資源活用調査」を踏まえた地域資源を活用した事業の実施件数	—	—	1件	5件	9件

委員による評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった

2 主な事業内容

(1) 持続可能な地域コミュニティの形成（実績額：29百万円）

持続可能な地域コミュニティの形成に向けて、幅広い世代の住民や外部人材も含めた多様な主体が参画する地域づくりに取り組む。

2023年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりサポートセンターの機能強化 ○ まちづくりミーティングの実施  <p>【まちづくりミーティング】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規活動創出を支援する講座「まちサポゼミ」の開催（全4回の連続講座、参加者数：8人） ○ 地域活動参加のきっかけづくりの場「つれのうてNIGHT」の開催（開催回数：24回、参加者数：延べ154人参加） ○ まちサポFacebook、ホームページによる情報収集・発信（フォロワー数：345、ホームページ：50,002PV） ○ 地域課題の解決策について地域住民が対話するまちづくりミーティングの実施（開催回数：13回、8学区） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化・複雑化する地域課題に対応していくため、地域での話し合いの支援や参加人数等を増やすための取組が必要。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題の解決に向けた団体・人材の育成確保や多様な主体のマッチング等に取り組む。

(2) 関係人口の創出と地域資源の活用（実績額：10百万円）

ワーケーションや地域資源を活用した取組を通じて関係人口を創出し、多様な主体による魅力的な地域づくりを進める。

2023年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーケーション推進事業 ○ 地域資源を活用した魅力向上  <p>【エシカルデニムツーリズムP J】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域おこし協力隊や市内大学との連携による市内外の人材のマッチング（プロジェクト創出件数：8件、関係人口数：47人） ○ 地域課題解決に向けたセミナーの実施（開催回数：2回、参加者数：62人） ○ ソーシャルビジネスセミナーの実施（全3回の連続講座、参加者数：12人） ○ 地域未来ビジョンの策定（エシカルデニムツーリズムPJ 1件） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力ある地域づくりに興味のある参加者を増やすためには、認知度向上の取組が必要。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業周知のための説明会を開催する等認知度向上に取り組む。 ○ 地域未来ビジョンの策定支援及び事業実施に係る伴走支援に取り組み、新たな魅力創出につなげる。

主な委員意見

○「まちサポゼミ」やソーシャルビジネスセミナー等の参加人数は少ないが、多様な主体を巻き込むためには時間を要するので、継続して実施する必要がある。

○地域課題の解決策について、地域住民が対話する場合は非常に良い取組と考える。持続可能な地域コミュニティの形成について、地元の大学・高校との連携を強化し、地域での対話の場に幅広い世代の住民（特に若い世代）の参加を促していくべきと考える。

○KPIのうち2つで目標値を上回っており、効果があったものとする。

計画名	外国人が暮らしやすく活躍できるまちづくり	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2022年度 実績額 200万円 (100万円)	2023年度 実績額 300万円 (200万円)	2024年度 計画額 300万円 (100万円)	合計	800万円 (400万円)
概要	外国人が自身の能力を十分に発揮し、地域住民や企業と協力して、まちの活力創出に向けて活躍できる環境づくりをめざす。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2022年度)	実績値(2023年度)	目標値(2023年度)	目標値(2024年度)
外国人市民のうち、「これからも福山市に住み続けたいと思う」と回答した人の割合	—	90.9%	83.5%	77.0%	78.0%
多文化共生大学の参加者数	83人 (2021年度)	60人	172人	480人	490人
外国人が増えることを肯定的にとらえる市民の割合	—	49.1%	83.6%	50.0%	55.0%

2 主な事業内容

(1) 行政の情報提供体制の充実（実績額：0.6百万円）

だれもが暮らしやすいまちづくりの推進のために、簡単に分かりやすい日本語や多言語での情報提供体制の充実に努める。

2023年度の主な取組

- 多言語による情報提供体制の充実



【多言語サポータースキルアップ講座】

実績・成果

- 外国人市民等への子育て訪問時の通訳ボランティアの派遣(件数:24件)
- 市ホームページの「やさしい日本語」への変換機能の運用・保守

課題

- 派遣依頼の多い言語への対応や派遣対象の拡大に向け、通訳ボランティアの確保・育成が必要。

今後の取組

- 派遣依頼の多い言語のボランティア確保に向け、養成スキルアップ研修を実施する。
- 派遣対象を赤ちゃん訪問だけでなく、1歳6か月児健診・3歳児健診にも拡大する。

(2) 地域コミュニティの活性化と新たな人材の確保（実績額：2.6百万円）

外国人が暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めることで、地域や企業における新たな人材の確保や地域コミュニティの活性化につなげる。

2023年度の主な取組

- 民間企業への就労促進
- 地域コミュニティへの参画促進



【外国人留学生向け合同企業説明会】

実績・成果

- 外国人留学生を対象とした合同企業説明会の実施(参加企業:17社、参加者数:57人)
- 日本語学習が初期段階である者を対象とした日本語講座の実施(開催回数:8回、受講者数:52人)
- ボランティアのための外国語サロンの開催(開催回数:137回、受講者数:939人)
- 日本語会話サロンの実施(開催回数:28回、受講者数:222人)

課題

- 合同企業説明会について、参加留学生の希望する業種と企業の採用業種が合致していない。両者のニーズを踏まえた取組が必要。
- 各講座やサロン等の参加者の定着と増加に向けた取組が必要。

今後の取組

- 外国人留学生と企業にニーズ調査を行い、市内・備後圏域内での就職を促進する。
- 今年度作成する「外国人生活情報リーフレット」等を活用した周知に取り組む。

委員による評価

事業 効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

○外国人が増えることを肯定的にとらえる市民の割合の増加が心強い。外国人雇用を進めるため、留学生と企業のニーズ調査に加えて、専門学校への調査も進めるべきと考える。

○外国人の活用は今後の都市活力向上において重要な要素になると考える。また、地域住民も外国人が増えることに対して肯定的にとらえているのであれば、優先順位を高めて取り組むべきと考える。

○様々な事業への外国人居住者の参加率が低いと感じる。事業実施の告知への工夫が必要ではないかと考える。

○外国人の日本語能力向上のために、地元の大学の施設等で、教員・学生ボランティアによる夕方からの日本語教室の開設を進めていくべきと考える。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用した事業の状況（2023年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	世界バラ会議福山大会を契機としたばらのまちづくりプロジェクト	計画期間	2023年度～2025年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2023年度 実績額	2024年度 計画額	2025年度 計画額	合計
概要	世界バラ会議福山大会を成功させることで、国際都市として世界から選ばれる福山の実現をめざす				37百万円 (18百万円)	93百万円 (46百万円)	63百万円 (32百万円)	193百万円 (95百万円)

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2023年度)	目標値(2023年度)	目標値(2025年度)
総観光客数	3,540千人 (2021年)	5,297千人	6,300千人	6,600千人
世界バラ会議福山大会応援宣言の数	532件 (2022年10月)	1,737件	582件	782件
首都圏における「ばらのまち福山」の認知度	8.4% (2021年度)	9.2%	10.0%	17.0%

2 主な事業内容

(1) 多様な主体が参画しやすい体制の構築、ばらの新たな価値の創出（実績額：19百万円）

世界バラ会議福山大会に向け、多様な主体の参加・交流を促進するとともに、多角的な視点でのばらの価値の磨き上げを行う。

2023年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界バラ会議福山大会に向けた取組  <p>【会場装飾用ばらのオペリスクプランター】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界バラ会議福山大会ホームページやSNSを活用したPR（ホームページPV数：94,722PV・SNS登録者数：2,578人） ○ Rose Expo FUKUYAMA 2025主要コンテンツの企画・設計 ○ 会場装飾用ばらのオペリスクプランターの製作・管理 ○ 市民・企業提案型事業の採択（採択件数：108件） ○ 世界バラ会議福山大会の応援宣言の募集（応援宣言数：1,737件） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福山大会の参加登録、Rose Expoへの誘客促進と市民の機運醸成のため、戦略的な広報活動が必要。
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 首都圏等へのターゲットを絞った広告宣伝を実施するとともに、イベント等の機運醸成に向けた取組を行う。

(2) インバウンド・国際MICEの誘致促進及び環境整備（実績額：18百万円）

案内標示等の多言語化やMICE受入ノウハウの構築・共有等の受入体制の整備を行い、インバウンド・MICEの誘致を促進する。

2023年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンド・MICE誘致の促進  <p>【メニューの多言語化支援】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福山市MICE推進協議会の開催（開催回数：2回） ○ 世界バラ会議参加登録受付システムの構築着手 ○ 飲食店メニューの多言語化支援（飲食店：53店） ○ 観光案内マップのデジタル化（登録スポット：239か所） ○ MICE誘致に向けたパンフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内事業者のインバウンドへの対応やMICE誘致に対する機運醸成が必要。 ○ 観光案内マップは、他社マップとの差別化や世界バラ会議等と連携した運用が必要。
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> ○ パンフレットを活用した積極的なMICE誘致活動や専門家の同行による首都圏でのセールス活動に取り組む。 ○ 観光案内マップは世界バラ会議福山大会会場周辺のスポットを追加する。

委員による評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
○インバウンド・国際MICEの誘致促進に向け、電子決済の拡大も必要と考える。	
○世界バラ会議を契機に、インバウンド効果が継続するような施策の展開を期待する。	
○世界バラ会議は、来年が開催年度であるが、開催後も継続して残るものを作り上げる仕掛けづくりを期待している。	
○MICEの誘致は、アナログ的な仕事で人間関係が一番大切であるため、アフターコロナにおいては、情報発信だけではなく、人間関係のネットワークの構築や具体的なターゲット化、それに対する強力なセールス活動が必要。「ばらのまち福山」の認知度アップは、全国的企業や団体とのタイアップも必要であると考えられる。	

計画名	若者・女性から選ばれる都市づくり	計画期間	2023年度～2025年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2023年度 実績額 39百万円 (19百万円)	2024年度 計画額 66百万円 (33百万円)	2025年度 計画額 45百万円 (23百万円)	合計	150百万円 (75百万円)
概要	子育て・仕事・賑わい・教育など、多角的な視点で施策を推進することにより、若者や女性に選ばれる都市の実現をめざす。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2023年度)	目標値(2023年度)	目標値(2025年度)
20歳～24歳の男女転出入数	-386人(2021年)	-465人	-286人	0人
市内大学卒業生の地元就職率	27.4%(2021年度)	27.7%	30.8%	32.3%
市内高校生の地元就職率	65.9%(2021年度)	— (※)	67.5%	75.0%
ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数	140事業者(2021年度)	137事業者	145事業者	155事業者

2 主な事業内容

※…2024年9月末集計予定

(1) 学生の地元定着の促進（実績額：10百万円）

企業の情報発信力強化や学生と企業の交流機会の拡大により、企業情報に触れる機会を増やし、学生の地元定着を促進する。

2023年度の主な取組

- 採用活動の支援



【高校生及び保護者の企業・職業説明会】

実績・成果

- 採用情報ページの新設・改修や採用動画の制作にかかる費用の補助(補助件数:23件)
- 高校生向け合同企業説明会の開催(企業数:47社、参加者数:179人)

課題

- 高校生向け合同企業説明会に、より多くの学校が参加できるように実施方法やPRに工夫が必要。

今後の取組

- 高校生向け合同企業説明会に、より多くの高校生が参加できる手法を検討し、地元企業を知る機会としてのPRを行う。

(2) 若者・女性など誰もが活躍でき、子育てに喜びを感じることができる環境づくり（実績額：29百万円）

誰もが活躍できる環境づくりや子育てしやすい環境整備等に取り組むことで、都市の魅力を高め、若者・女性の定着や人材育成につなげる。

2023年度の主な取組

- 誰もが活躍できる環境づくり
- 魅力ある子育て環境の整備



【びんごキッズラボ】

実績・成果

- 職場における女性の就労環境改善に係る設備等の整備費用の補助(補助件数:9件)
- 備後圏域内企業の経営課題の解決に向け、兼業・副業人材とのマッチング(マッチング数:15社)
- 備後圏域の市町の課題に対して、高度専門人材をマッチング(案件数11件、活用人材7名)
- 独自の求人情報とのマッチングで保育士の復職を支援(登録者数:48人、採用決定者:19人)
- 中学生向け看護体験事業の実施(参加人数:34人)
- 高校生向け看護学校進路相談会の実施(参加人数:38人)
- デジタル技術や最新のテクノロジーに触れるイベントの開催(びんごキッズラボ)(来場者数:1,905人)

課題

- 女性の雇用促進や活躍の場を広げるため、働く環境改善の重要性のPRが必要。
- 市内企業の兼業・副業人材への関心は低く、人材活用が進んでいないため、引き続き、セミナーや交流会等の取組が必要。

今後の取組

- 女性の就労環境改善の補助対象を拡大し、利用促進につなげる。
- 市内企業に兼業・副業による人材活用を経営課題の解決手段の一つとして認知してもらうために、兼業・副業の好事例の共有や、兼業・副業人材と交流する場を作る。

委員による評価

事業効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

○ 地元定着について、大学生・高校生へのヒアリングを行い、ニーズを把握してからより効果的なマッチング事業をしていく必要があると考える。

○ 福山市内の魅力ある優良企業を高校生や大学生に訴求できれば地元定着が進むのではないかと考える。

○ 市内大学卒業生の地元就職率について、就職率を向上させるための取組(学生の企業への訪問機会の創出、地元企業との包括協定等)を更に進めていくべきと考える。

○ 大学進学者のうち地元外出身者は、そもそも福山市を離れる傾向が当然あり、進学で地元を離れる高校生に地元企業の魅力と地域の暮らしやすさを伝達することが重要ではないかと考える。

○ 学生期において、地域の魅力や課題などをフィールドワークを通して触れさせることで、自身が備後地域において役立てることを想像させ、ひいては将来的に備後地域内での就職など定着につながると考える。

計画名	ふくやまSDGs推進プロジェクト	計画期間	2023年度～2025年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2023年度 実績額	2024年度 計画額	2025年度 計画額	合計
概要	市内外の多様な主体との連携のもと、環境課題・社会課題の解決や新たな価値の創造に取り組み、持続可能なまちの実現をめざす。				22百万円 (11百万円)	32百万円 (16百万円)	25百万円 (12百万円)	79百万円 (39百万円)

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2023年度)	目標値(2023年度)	目標値(2025年度)
交付金事業を通じて生まれたプロジェクト数	—	5件	5件	30件
福山市SDGs推進プラットフォームのアクセス件数（延べ）	—	—	—	30,000件
農業参入法人による雇用者数	—	—	—	60人

2 主な事業内容

(1) 企業の課題解決や現状分析によるSDGs達成に向けた取組（実績額：11百万円）

デジタル技術の活用による企業の課題解決や新たな価値創出をはじめ、カーボンニュートラルや再生可能エネルギーへの転換に向けた診断を支援し、企業のSDGs達成の取組を加速させる。

2023年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 市内企業の課題解決やGX化に向けた診断を支援  <p>【ふくやまビジネスキャンプ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふくやまビジネスキャンプの実施（参加企業：5社、参加者数（デジタル人材）：10人） 中小企業の省エネルギー化に向けた省エネ診断補助（補助件数：7件） 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の課題解決とSDGs達成を両立する新たなアプローチが必要。 事業者に対して、省エネ診断の概要やメリットの周知が必要。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の課題解決の手法として、生成AI等の先進的な技術を活用し、事例創出につながる事業を実施する。

(2) 温室効果ガスの吸収源の確保に向けた仕組みづくり・人材の確保（実績額：11百万円）

多様な主体による里山・里地・里海の再生・保全活動を支援するとともに、農業への企業参入による担い手確保を促進することで、地域環境の保全につなげる。

2023年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 里山里地の再生・保全活動の支援 農業法人の参入促進  <p>【里山里地再生保全活動】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体と連携した里山里地の再生・保全活動の実施（実施回数：93回、動員人数（補助件数）：586人） 農業法人の探索（農業法人の選定：6社（うち、参入に向けた調整：3社）） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域が多様な活動を展開できるよう、ノウハウを持った地域外住民、企業、NPO等の参加が必要。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体の参加を促進するため、ホームページや広報誌等を活用した広報活動に取り組む。

委員による評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<p>○本事業はグリーンな企業プラットフォームと連携して取り組む市の重点施策であり、今後の更なる事業展開を期待している。</p> <p>○脱炭素等への取組について未対応の中小企業も多いため、中小企業に対して脱炭素化に向けた意識醸成を図る取組が必要ではないかと考える。省エネ診断費用や二酸化炭素排出管理システム導入費用に対する補助は良い取組であり継続していくべきと考える。</p> <p>○SDGsについての認知度は高まっているものの、実際の行動に結びつけていくことが課題だと考える。</p>	

新たに認定されたデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用する事業（概要）

計画名	歴史・文化資源を活用した経済活性化プロジェクト	計画期間	2024年度～2026年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2024年度 計画額	2025年度 計画額	2026年度 計画額	合計
概要	滞在時間の延長や商品の高付加価値化による観光消費額の拡大を図るとともに、時間帯を限定しないにぎわいあふれる都市としての文化を創出し、根付かせる。				46百万円 (23百万円)	43百万円 (21百万円)	42百万円 (21百万円)	131百万円 (65百万円)

1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2026年度）
地域における観光消費額	326億円 (2022年)	347億円
2022年に福山城が築城400年を迎え、令和の大普請（改修工事）が完了したことを知っている市民の割合	77.6% (2022年度)	90.0%
交付金事業を通じて生まれたコンテンツ数	—	12件

2 主な事業内容

- 魅力的なコンテンツの開発、開拓、活用
 - ・ 福山城等を活用して四季を通じたイベントの実施
 - ・ 民間事業者による福山城等の利活用・魅力アップ事業への支援
 - ・ 農林水産物の6次産業化の推進への支援
 - ・ 農林水産物の付加価値の向上等をめざす事業者に対するアドバイザーの派遣
 - ・ 中心市街地の活性化支援
 - ・ 6次産業化に取り組む農林水産業者等への新商品開発等の取組の支援
- 地域資源の認知度向上
 - ・ 【デジタル】 OTA（Online Travel Agent）による認知度向上及びインバウンド等の集客
 - ・ 農林水産物の販路拡大に向けたブランド化等の支援
 - ・ 【デジタル】文化財のデジタルアーカイブ化
- 受入体制の整備
 - ・ 福山城の多門櫓復元の検討・調査
 - ・ 【デジタル】観光デジタルマップの充実・活用

新たに認定されたデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用する事業（概要）

計画名	備後圏域中小企業DX好循環創生プロジェクト	計画期間	2024年度～2026年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2024年度 計画額	2025年度 計画額	2026年度 計画額	合計
概要	中小企業の労働生産性を向上させるため、デジタル化の啓発による意識醸成、デジタル技術を活用したより高度な事例創出等により、業務効率化の促進と生産性向上を実現する企業の循環をつくることをめざす。				57百万円 (29百万円)	80百万円 (40百万円)	65百万円 (33百万円)	202百万円 (102百万円)

1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2026年度）
地域における人口一人当たりの労働生産性	5,011.61千円 (2020年)	5,111.84千円
「企業へのデジタル化の啓発による意識醸成」への参加企業数	—	300社
実装により生産性向上につながったと回答した企業数	—	75社

2 主な事業内容

- 企業へのデジタル化の啓発による意識醸成
 - ・ 企業でAI等の活用を促進するプラットフォームの構築・運営
- 導入すべきクラウドサービス等と企業のマッチングの促進
 - ・ AI等を中心としたクラウドサービス等の展示会・マッチング
- クラウドサービス等を導入する企業への伴走支援
 - ・ クラウドサービス等の選定から導入までの伴走支援
- 生成AI等のデジタル技術を活用したより高度な事例創出
 - ・ 活用事例の創出までを支援する実践型勉強会の開催

1 TYPE1

事業名	スマート保育推進事業	事業期間	2023年度	事業費 (うち交付金充当額)	計画額	174百万円 (87百万円)		
概要	保育現場へのICT導入により、保護者の利便性や保育の質の向上につなげるとともに職員の業務改善をめざす。また、保育環境を整備することで、保育士の確保につなげる。				実績額	109百万円 (54百万円)		
主なKPI				実績値 (2023年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	
保護者の利用満足度				75%	70%	75%	80%	
保護者の滞在時間の削減 (対2022年度比)				122時間	46時間	693時間	1,513時間	
事務作業従事時間の削減 (対2022年度比)				41%	40%	50%	60%	
主な委員意見				○人口流入、住民の満足度を向上させていく上でも重要な取組と考える。また、対象の住民はデジタル推進に向けて重要なターゲット層なので、徹底的にデジタルをフル活用し、事務作業の大幅な軽減につなげてほしい。 同時に、取組状況（結果）の内外へのプロモーションも必要と考える。 ○単年度のKPIは目標を達成しているが、2024年度以降は一層高い目標となっているため、引き続き取組に期待したい。				



【スマート保育】

1 TYPE1

10

事業名	介護認定調査業務のデジタル化事業	事業期間	2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	計画額	24百万円（12百万円）		
概要	介護認定調査業務の効率化やペーパーレス化、申請から認定までの期間短縮を図り、迅速かつ円滑に介護サービスを提供する。							
主なKPI				目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	目標値 (2026年度)		
申請から認定に要した日数				37.7日	37.0日	36.0日		
調査票作成に要した日数				18.9日	17.6日	16.4日		

11

事業名	地理空間情報のオープンデータ化事業	事業期間	2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	計画額	92百万円（46百万円）		
概要	市が所有する基盤地図（地形図）のデータ整備及びGIS等を用いた地理空間情報のデータを市のホームページでオープンデータ化し、市民活動などそれぞれの目的に応じた最適な情報の閲覧、取得、活用を可能とする。							
主なKPI				目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	目標値 (2026年度)		
都市計画情報問い合わせ件数の削減率				5%	10%	20%		
利用者のサービス満足度の向上				—	10%分	30%分		

新たに認定されたデジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を活用する事業（概要） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

1 TYPE1

事業名	福山市公園施設デジタル化事業	事業期間	2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	計画額	50百万円（25百万円）		
概要	市内に約700ある公園の詳細情報をGISシステムを活用して公開し、公園利用者の利便性向上を図る。公園施設に対する市民満足度向上、来園者増加をめざす。							
主なKPI				目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	目標値 (2026年度)		
公園情報検索システムの年間アクセス回数				3,000回	60,000回	63,000回		
サービス利用者の満足度				3.0ポイント	3.25ポイント	3.25ポイント		

12

事業名	個別最適な学びの実現と保護者へのきめ細かな対応を実現するデジタル化推進事業	事業期間	2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	計画額	200百万円（100百万円）		
概要	学校と保護者との連絡手段や学校における現金徴収業務をデジタル化し、保護者の利便性向上を図る。教職員が子どもの情報を共有しやすくし、個別最適な学びの実現や支援を必要とする児童生徒や保護者へのきめ細かな対応につなげる。							
主なKPI				目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	目標値 (2026年度)		
学校と保護者との連絡手段に関する保護者満足度				70%	90%	95%		
先生からきめ細かいフォローを受けていると感じる子どもの割合				93%	95%	97.5%		
学校に行くのが楽しいと感じる子どもの割合				83%	85%	87.5%		

13

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業（企業版ふるさと納税）の状況（2023年度実績）

計画名	福山市まち・ひと・しごと創生推進計画	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 （うち寄附金 充当額）	2022年度 実績額	2023年度 実績額	2024年度 計画額	合計
概要	「福山みらい創造ビジョン」に基づいた事業に企業版ふるさと納税を活用することで地方創生の推進に取り組む。				29百万円 (27百万円)	437百万円 (95百万円)	47百万円 (31百万円)	513百万円 (153百万円)

2023年度の主な取組		実績・成果		委員による評価	
○ ばらの環境整備事業	○ 植栽デザイン計画に基づくばら公園等の整備(植栽工事:6か所)	事業効果	○ 宮澤喜一記念館の整備（壁面グラフィック、映像コンテンツの製作等）	○	地方創生に非常に効果的であった
○ 宮澤喜一記念館整備事業	○ 福山シティフットボールクラブとの連携 (練習場の整備事業、練習場の公共的団体への貸付事業:5件、市内小学校訪問事業:12校)		○	地方創生に相当程度効果があった	
○ サッカーを活用した地域振興プロジェクト	○ 福山市民病院機能強化に向けた周産期医療等の研修環境の整備 (エコーシミュレーター等の設置)			地方創生に効果があった	
○ 福山市民病院整備事業				地方創生に対して効果がなかった	
				主な委員意見	
				○企業とのマッチングが重要だと考える。また、実施したい事業を連想し、それが企業価値の向上につながるというメリットを携えた上での一定の営業活動が必要だと考える。	



【ばらの環境整備工事】



【宮澤喜一記念館整備事業】



【サッカーを活用した地域振興プロジェクト】



【福山市民病院整備事業】